



## 平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 魚喜  
 コード番号 2683 URL <http://www.uoki.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 有吉 喜文  
 (氏名) 堀 弘之

TEL 0466-45-9282

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	9,741	△2.9	22	—	16	—	△16	—
26年2月期第3四半期	10,030	△0.2	△26	—	△33	—	△79	—

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 △3百万円 (—%) 26年2月期第3四半期 △73百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	△6.51	—
26年2月期第3四半期	△31.01	—

※平成25年9月1日付で普通株式5株を1株の割合で併合しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年2月期第3四半期	2,786	242	8.7	95.04
26年2月期	2,208	246	11.2	96.60

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 242百万円 26年2月期 246百万円

※平成25年9月1日付で普通株式5株を1株の割合で併合しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年2月期	—	0.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,500	△2.4	160	26.9	160	38.0	80	173.7	31.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期3Q	2,555,856 株	26年2月期	2,555,856 株
② 期末自己株式数	27年2月期3Q	2,061 株	26年2月期	2,021 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期3Q	2,553,795 株	26年2月期3Q	2,553,935 株

※平成25年9月1日付で普通株式5株を1株の割合で併合しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年3月1日から平成26年11月30日まで)におけるわが国経済は、政府や日本銀行による経済政策・金融政策の効果もあり、緩やかな回復基調にあるものの、新興国をはじめとする海外経済の減速、円安による輸入原材料価格やエネルギーコストの上昇などの不安材料が存在し、先行きは依然として不透明な状況が続いております。個人消費に関しても消費税引き上げに伴う駆け込み需要とその反動により不安定な状態が続きました。

当社グループが事業の主体をおく水産小売業界においては、食の安心・安全に対する関心が一層高まるとともに節約志向・低価格志向がいまだに根強く続いております。他方、水産資源の枯渇や異常気象などによる漁獲量の減少に加えて世界的規模の需要増や円安により、魚介類の仕入価格は依然として上昇傾向にあります。この消費性向と仕入環境により当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境において、当社は収益改善を図るべく、お客様のニーズを満足させる付加価値の高い商品の開発やお客様にとって見やすい買いやすい魅力ある売場づくりなど、既存店舗の活性化を最優先事項として取り組んでまいりました。また、利益確保が見込める優良物件への新規出店(鮮魚3店舗)及び不採算店舗等の退店(鮮魚7店舗、飲食1店舗)をいたしました。経費面では包装材料コストの削減を中心とした仕入効率化による原価率の低減、並びに従業員1人当りの生産性向上のための要員見直し等を実施し、人件費及び諸経費の削減を積極的に推進いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における当社の売上高は前年同四半期比2.9%減の97億41百万円、売上総利益は前年同四半期比1.7%減の39億90百万円と前年同四半期を下回る結果となりましたが、上記施策及び経費削減が奏功し、営業利益は22百万円(前年同四半期は26百万円の営業損失)、経常利益は16百万円(前年同四半期は33百万円の経常損失)、四半期純損失は16百万円(前年同四半期は79百万円の四半期純損失)と大きく収益改善をすることができました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (鮮魚事業)

鮮魚事業の売上高は、88億4百万円(前年同四半期比2.7%減)となりました。セグメント利益は、既存店の強化や原価率の低減、出退店施策及び経費削減が奏功し、3億56百万円(前年同四半期比51.4%増)となりました。

#### (飲食事業)

飲食事業の売上高は、7億54百万円(前年同四半期比7.9%減)となり、セグメント利益は10百万円(前年同四半期比57.5%減)となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業の売上高は、2億円(前年同四半期比8.6%増)となり、セグメント利益は44百万円(前年同四半期比0.4%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5億77百万円増加し、27億86百万円となりました。このうち、流動資産は前連結会計年度末に比べ4億97百万円増加して19億5百万円となり、また、固定資産は前連結会計年度末に比べ80百万円増加して8億81百万円となりました。

流動資産の増加は当第3四半期末日が銀行休業日だったため買掛金等の支払が翌月になったこと等により、現金及び預金が2億68百万円増加したこと並びに売掛金が1億76百万円増加したこと等によるものであります。

#### (負債)

負債の総額は、前連結会計年度末に比べ5億81百万円増加し、25億43百万円となりました。このうち、流動負債は前連結会計年度末に比べ3億3百万円増加して20億33百万円となり、また、固定負債は前連結会計年度末に比べ2億78百万円増加して5億10百万円となりました。

流動負債の増加は、短期借入金が増加しましたが、上記休日要因によって買掛金が5億33百万円増加したこと等によるものであります。固定負債の増加は、財務バランス改善のため長期借入金を借り入れたこと等によるものであります。

#### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ3百万円減少し、2億42百万円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期通期業績予想につきましては、平成26年4月14日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
  
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
  
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	567,600	836,071
売掛金	546,654	722,673
商品	118,507	161,457
貯蔵品	13,698	11,861
その他	161,825	173,690
貸倒引当金	△496	△670
流動資産合計	1,407,790	1,905,084
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	629,373	641,017
減価償却累計額	△518,029	△500,462
建物及び構築物(純額)	111,344	140,554
工具、器具及び備品	862,181	827,292
減価償却累計額	△774,269	△709,998
工具、器具及び備品(純額)	87,912	117,294
土地	389	389
リース資産	41,872	47,538
減価償却累計額	△23,193	△21,895
リース資産(純額)	18,678	25,643
有形固定資産合計	218,325	283,881
<b>無形固定資産</b>		
リース資産	15,605	7,723
その他	16,738	16,310
無形固定資産合計	32,344	24,034
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	74,241	93,915
敷金及び保証金	454,749	457,920
その他	21,224	21,553
投資その他の資産合計	550,215	573,389
固定資産合計	800,885	881,305
資産合計	2,208,676	2,786,390

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	458,257	991,671
短期借入金	750,000	250,000
1年内返済予定の長期借入金	41,600	115,132
リース債務	17,977	12,595
未払金	145,688	214,675
未払法人税等	70,542	6,378
賞与引当金	16,271	1,204
資産除去債務	2,319	2,699
その他	227,188	439,037
流動負債合計	1,729,845	2,033,394
固定負債		
長期借入金	—	291,600
リース債務	19,752	24,210
長期預り保証金	137,073	117,619
繰延税金負債	7,189	13,916
資産除去債務	64,483	59,838
負ののれん	3,636	3,091
固定負債合計	232,137	510,275
負債合計	1,961,982	2,543,669
純資産の部		
株主資本		
資本金	941,031	941,031
資本剰余金	1,029,015	1,029,015
利益剰余金	△1,728,529	△1,745,164
自己株式	△5,443	△5,456
株主資本合計	236,072	219,425
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,621	23,295
その他の包括利益累計額合計	10,621	23,295
純資産合計	246,693	242,720
負債純資産合計	2,208,676	2,786,390

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	10,030,675	9,741,941
売上原価	5,971,512	5,751,053
売上総利益	4,059,162	3,990,887
販売費及び一般管理費	4,085,532	3,968,187
営業利益又は営業損失(△)	△26,369	22,700
営業外収益		
受取利息	39	10
受取配当金	1,310	1,370
受取手数料	1,849	3,327
負ののれん償却額	545	545
その他	3,105	1,382
営業外収益合計	6,850	6,636
営業外費用		
支払利息	14,355	11,711
その他	58	883
営業外費用合計	14,413	12,594
経常利益又は経常損失(△)	△33,932	16,742
特別利益		
固定資産売却益	1,169	905
違約金収入	—	2,634
その他	360	—
特別利益合計	1,529	3,539
特別損失		
固定資産売却損	—	47
固定資産除却損	990	986
店舗閉鎖損失	—	1,025
減損損失	1,911	3,411
特別損失合計	2,901	5,471
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△35,304	14,810
法人税、住民税及び事業税	44,387	31,719
法人税等調整額	△492	△273
法人税等合計	43,895	31,446
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△79,199	△16,635
四半期純損失(△)	△79,199	△16,635

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△79,199	△16,635
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,150	12,674
その他の包括利益合計	6,150	12,674
四半期包括利益	△73,048	△3,960
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△73,048	△3,960
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	鮮魚事業	飲食事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,044,469	818,416	167,789	10,030,675	—	10,030,675
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	16,764	16,764	△16,764	—
計	9,044,469	818,416	184,553	10,047,439	△16,764	10,030,675
セグメント利益	235,732	23,876	43,995	303,604	△329,974	△26,369

(注) 1. セグメント利益の調整額△329,974千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△330,079千円等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

鮮魚事業セグメントにおいて、閉店が確定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては1,911千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	鮮魚事業	飲食事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,804,228	754,168	183,544	9,741,941	—	9,741,941
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	16,907	16,907	△16,907	—
計	8,804,228	754,168	200,451	9,758,848	△16,907	9,741,941
セグメント利益	356,806	10,155	44,187	411,149	△388,449	22,700

(注) 1. セグメント利益の調整額△388,449千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△387,981千円等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

鮮魚事業セグメントにおいて、閉店が確定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては3,411千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。